

アオノクマタケラン (ショウガ科)

～亜熱帯の珍種～

呼子町の田島神社の境内をくぐると右手に「頼光鳥居」がある。この鳥居の背後の石段を登ると正面に赤い朱塗りの「佐用姫神社」がある。この神社の裏手に回ると小高い丘の上まで山道が続く。周りは、タブノキ、モチノキ、クロキ、ヤブニッケイなどの樹木が生い茂り、昼間でも薄暗い感じである。

足元にはヤマアイが山道を隠すくらいに所狭しと繁茂している。その中に、ムサシアブミ、ナンゴクウラシマソウ、ハマウドなどの大きな葉を広げた植物が点々と生えている。これらの植物の背後に、やや大型の、高さ1～2mくらいに伸びたアオノクマタケランが群生している。一見、ショウガかカンナの葉に似た濃青緑の葉は、光沢があり見るからに他の植物とは違った感じのするもので、それとすぐ分かる。この群落は幅5～10m、長さ50mくらいの範囲で、道の両側から森の奥の「太閤祈念石」の大岩の所まで続いている。

7月になると、葉の間から高さ50～70cmくらいの円錐花序（総状花序）を伸ばし、そこから出た花枝に、それぞれに3～4個の花をつける。長さ2cmくらいの白色で唇弁がわずかに淡紅色を帯びる。ハナミョウガに似た花は、他で見られない特徴のあるもので、沖縄や奄美大島などに生育するゲットウ（月桃）の花に似て、南国情緒を漂わせている。薄暗い林内で、この高く伸びた白い花を見ると、内陸では見られないその姿形に異国情緒を感じさせられる。

加部島は玄界灘を流れる対馬暖流の影響を受けて、暖地性の植物が生育する。特質のアオノクマタケランの他にカカツガユ、ギョクシンカという二つの樹木がある。カカツガユも県内分布が少ないものですが、ギョクシンカ（アカネ科）は佐賀県の分布はここだけである（台湾、琉球、九州）。

アオノクマタケランは、南西諸島、中国、台湾、本州（伊豆七島、紀伊半島）、四国、九州。九州でも長崎、大分、鹿児島、宮崎、佐賀県の数か所です。佐賀県では「絶滅危惧種Ⅱ類」にランクされています。加部島は南方系の植物が観察できる貴重なところといえるようである。

アオノクマタケランの種子は、「伊豆縮砂（いずしゅくしゃ）」とって、芳香健胃剤として薬用にされるそうである。

分野 自然

地域 呼子

◎地図・写真・統計資料など



(川浪誠氏より)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『日本の野性植物 草本Ⅰ 単子葉類／平凡社
- ◆『日本の野性植物 木本Ⅱ』平凡社
- ◆『九州植物目録』初島住彦
- ◆『レッドデータブック さが』佐賀県環境政策局 環境企画課

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html